

(別紙3)

建企起第887号-1

平成29年9月8日

米子市万能町駐車場指定管理者
星光ビル管理株式会社
代表取締役社長 饗庭浩二様

米子市長 伊木隆司

平成28年度「米子市万能町駐車場」指定管理者業務評価書

| | |
|--------|-----------------------------|
| 施設名 | 米子市万能町駐車場 |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 |
| 指定管理者名 | 星光ビル管理株式会社 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日 ~ 平成29年3月31日(3年目) |

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。
・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】
事業計画に沿って、良好に管理された。

【第三者評価】
—

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】
—

【第三者評価】
—

(別紙3)

建企起第887号-1

平成29年9月8日

米子駅前地下駐車場指定管理者
星光ビル管理株式会社
代表取締役社長 饗庭浩二様

米子市長 伊木隆司

平成28年度「米子駅前地下駐車場」指定管理者業務評価書

| | |
|--------|-----------------------------|
| 施設名 | 米子駅前地下駐車場 |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 |
| 指定管理者名 | 星光ビル管理株式会社 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日 ~ 平成29年3月31日(3年目) |

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。
・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】

事業計画に沿って、おおむね良好に管理された。

機械式駐車設備が老朽化しており、施設の管理・運営が難しい状況の中で、事故等なく安全に管理・運営をしていただいた。

接客、対応等に関してお客様から苦情が寄せられることもあった。

【第三者評価】

—

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

—

【第三者評価】

—

(別紙3)

建企起第887号-1

平成29年9月8日

米子駅前地下駐輪場指定管理者
星光ビル管理株式会社
代表取締役社長 饗庭浩二様

米子市長 伊木隆司

平成28年度「米子駅前地下駐輪場」指定管理者業務評価書

| | |
|--------|-----------------------------|
| 施設名 | 米子駅前地下駐輪場 |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 |
| 指定管理者名 | 星光ビル管理株式会社 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日 ~ 平成29年3月31日(3年目) |

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。
・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】
事業計画に沿って、良好に管理された。

【第三者評価】
—

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】
—

【第三者評価】
—

(別紙2)

平成28年度下期「米子市万能町駐車場」モニタリング評価表〔平成29年3月〕

| | | |
|---------|---|---------------------|
| 施設名 | 米子市万能町駐車場 | |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 | |
| 指定管理者名 | 団体名 | 星光ビル管理株式会社 |
| | 所在地 | 大阪府大阪市中央区伏見町4丁目4番1号 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 選定方法 | 公募・非公募 | |
| 施設の設置目的 | 米子駅周辺地区の駐車施設不足を解消し、路上駐車による交通混雑の緩和、道路交通の円滑化、さらには、市民及び来街者の利便性の向上を図り、もって、都市機能を維持、増進させることを目的とする（昭和63年に鳥取県から移管）。 | |
| 主な実施事業 | 米子市万能町駐車場の運営 | |

| 評価項目 | 評価基準 | 評価 | 特記事項 |
|---------------------|--|----|---|
| I 履行の確認（60点） | | | |
| 1 施設全般の管理運営に関する業務 | | | |
| (1) 管理体制 | 施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか | B | 資料等確認 安全管理、品質向上、マナー向上の意識付けを特に毎月第3月曜日から1週間を重点期間として取り組んだ |
| (2) 職員研修 | 職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1～4/2、9/1～9/2に接遇マナー及び個人情報保護研修 受講者各25人 マナーブックの常時携帯 |
| (3) 利用促進業務 | 利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか | B | 資料等確認 指定管理者ホームページにて広報 |
| 2 利用者に関する業務 | | | |
| (1) 利用状況 | 利用者数・稼働率は適切な水準であるか ※1 | B | 資料等確認 総利用台数が昨年度と比較して3,001台増加した |
| (2) 利用者の要望把握 | 利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか | B | 資料等確認 |

| | | | |
|---------------------------|--|---|--|
| 握等 | るか | | 9月に定期利用者を対象にアンケートを実施 |
| 3 保守点検及び清掃等の業務 | | | |
| (1)保守点検業務 | 基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 パーキングシステムの保守を実施 |
| (2)清掃・維持業務 | 基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 毎日の巡回時に清掃、塵収集等を実施 |
| (3)保安・警備業務 | 基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 事件なく適切に処理されている 機械警備は委託にて実施 |
| (4)修繕業務 | 基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 パーキングシステムの修繕、管球取替を実施 |
| 4 自主事業の実施に関する業務 | 事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか | | |
| 5 情報公開・個人情報に係る措置 | 情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1～4/2、9/1～9/2に個人情報保護研修 受講者各25人 |
| 6 管理目標 | 施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか | B | 施設の現状を的確に認識し、市に報告していただいている |
| II サービスの質の評価 (25点) | | | |
| 1 利用者満足度 | 利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか | B | 資料等確認 9月に定期利用者を対象にアンケートを実施し、多くの方が不満なくご利用いただいていることがうかがえた |
| 2 維持管理業務 | 日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか | B | 資料等確認 毎日の巡回時の清掃や塵収集等により、施設が良好な状態に保たれている |

| | | | |
|---------|--|---|---|
| 3 運營業務 | 事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか | B | おおむね適切に接客している |
| 4 自主事業 | 実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか | | |
| 5 施設の効用 | 施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか | A | 当施設周辺の通勤・通学者、来街者等の利便性の向上に役立っている 利用状況に合った満車設定に変更するなど柔軟な運用をされ、利用台数の増加に繋がった |

Ⅲ サービスの安定性の評価（15点）

| | | | |
|------------------|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1 事業収支 | 指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2 | B | 収支予算に沿った事業収支で妥当である |
| 2 経営状況 | 指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3 | B | 費用に偏りもなく妥当である |
| 3 団体等の経営状況（年度ごと） | 団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4 | A | 資料等確認 施設の管理・運営を安定して行う能力を有すると認められる |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 【総評（所管課評価）】 事業計画に沿って、良好に管理された。 | 合計点 (58) 点 / (90) 点 × 100 = (64.4) 平均点 (3.2) 点 |
|-----------------------------------|--|

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|--------|----------------------|----------------------|-----------------|---------------------------|
| 開館日数 | 365日 | 366日 | ▲1日、99.7(%) | |
| 施設利用者数 | 48,130台 | 45,129台 | 3,001台、106.6(%) | |
| 施設稼働率 | | | (%) | |
| 事業開催数 | | | (%) | |

※2 事業収支

(1) 収入

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|-------|----------------------|----------------------|---------------|---------------------------|
| 指定管理料 | 2,575,840円 | 2,575,840円 | 0円、100.0(%) | |
| 合計 | 2,575,840円 | 2,575,840円 | | |

(2) 支出

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|-----|----------------------|----------------------|------------------|---------------------------|
| 人件費 | 1,806,000円 | 1,792,000円 | 14,000円、100.8(%) | |
| 委託料 | 231,000円 | 231,000円 | 0円、100.0(%) | |
| 運営費 | 538,840円 | 552,840円 | ▲14,000円、97.5(%) | |
| 合計 | 2,575,840円 | 2,575,840円 | | |

※3 経営状況分析指標

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 備考 |
|---------------------|----------------------|----------------------|---------------|----|
| ① 事業収支 | 0円 | 0円 | 0円、100.0(%) | |
| ② 利用料金比率 | | | (%) | |
| ③ 人件費比率 | 70.1% | 69.6% | 0.5%、100.7(%) | |
| ④外部委託費比率 | 9.0% | 9.0% | 0.0%、100.0(%) | |
| ⑤利用者当たり管 理コスト | 53.5円 | 57.1円 | ▲3.6円、93.7(%) | |
| ⑥利用者当たり自 治体負担コスト | 53.5円 | 57.1円 | ▲3.6円、93.7(%) | |

①事業収支：(収入-支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

| 項目 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 備考 |
|-----------|------------------|--------|--------|--------|--------|----|
| ①自己資本比率 | 72.1% | 72.1% | 70.8% | 71.7% | 77.0% | |
| ②流動比率 | 249.9% | 245.1% | 229.3% | 255.1% | 399.5% | |
| ③固定長期適合率 | 66.0% | 66.9% | 68.1% | 64.2% | 56.2% | |
| ④総資産経常利益率 | 4.1% | 3.1% | 4.6% | 5.4% | 5.4% | |
| 評価 | (以上の指標を参考に評価する。) | | | | | |

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 流動資産 | | 流動負債 | |
| 現金及び預金 | 400 | 買掛金 | 400 |
| 受取手形 | 500 | 短期借入金 | 300 |
| 有価証券 | 200 | 流動負債合計 | 700 |
| 流動資産合計 | 1,100 | 固定負債 | |
| 固定資産 | | 社債 | 300 |
| 建物及び構築物 | 200 | 退職給付引当金 | 200 |
| 土地 | 500 | 固定負債合計 | 500 |
| 投資有価証券 | 200 | 負債合計 | 1,200 |
| 固定資産合計 | 900 | 【純資産の部】 | |
| | | 資本金 | 600 |
| | | 利益剰余金 | 200 |
| | | 純資産合計 | 800 |
| 資産合計 | 2,000 | 負債純資産合計 | 2,000 |

■損益計算書（例）

| | |
|------------|-------|
| 売上高 | 3,000 |
| 売上原価 | 1,200 |
| 売上総利益 | 1,800 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,200 |
| 広告 | 700 |
| 人件費 | 500 |
| 営業利益 | 600 |
| 営業外収益 | 200 |
| 受取利息 | 200 |
| その他 | 0 |
| 営業外費用 | 600 |
| 支払利息 | 200 |
| 社債利息 | 0 |
| 経常利益 | 200 |
| 特別利益 | 100 |
| 外国為替 | 100 |
| 特別損失 | 50 |
| 固定資産売却損 | 50 |
| 税引前当期純利益 | 250 |
| 法人税・住民税等 | 50 |
| 当期純利益 | 200 |

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の出入りは止めて欲しい。夜間は壁際の駐車は禁止にして欲しい。防犯カメラを設置して欲しい。 →（指定管理者）アイドリングストップ等の注意喚起の貼紙を設置。（市）防犯カメラの設置について検討中。 ・猫が住み着いて、近隣に糞をしたり、車へ悪さをしたりして、困っている。 →（指定管理者）餌付けをしている方がいるという情報があるので、餌付けをしないよう注意喚起の貼紙を設置。 |
|---|

6 利用者アンケートの結果

| |
|--|
| <p>9月に定期利用者を対象にアンケートを実施。</p> <p>不満なく利用しているという回答が多数であったが、野良猫やカラスの発生、発券機・精算機の故障、駐車スペースの狭さ、水たまりの多さ、更新手続きの面倒さなどについて不満があるという意見も寄せられた。</p> |
|--|

(別紙2)

平成28年度下期「米子駅前地下駐車場」モニタリング評価表〔平成29年3月〕

| | | |
|---------|---|---------------------|
| 施設名 | 米子駅前地下駐車場 | |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 | |
| 指定管理者名 | 団体名 | 星光ビル管理株式会社 |
| | 所在地 | 大阪府大阪市中央区伏見町4丁目4番1号 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 選定方法 | 公募・非公募 | |
| 施設の設置目的 | 米子駅周辺地区の駐車施設不足を解消し、路上駐車による交通混雑の緩和、道路交通の円滑化、さらには、来街者の利便性の向上を図り、もって、交通結節点としての都市機能を維持、増進させることを目的とする。 | |
| 主な実施事業 | 米子駅前地下駐車場の運営 | |

| 評価項目 | 評価基準 | 評価 | 特記事項 |
|----------------------|--|----|---|
| I 履行の確認 (60点) | | | |
| 1 施設全般の管理運営に関する業務 | | | |
| (1) 管理体制 | 施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか | B | 資料等確認 安全管理、品質向上、マナー向上の意識付けを特に毎月第3月曜日から1週間を重点期間として取り組んだ |
| (2) 職員研修 | 職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1～4/2、9/1～9/2に接遇マナー及び個人情報保護研修 受講者各25人 マナーブックの常時携帯 |
| (3) 利用促進業務 | 利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか | B | 資料等確認 指定管理者ホームページにて広報 |
| 2 利用者に関する業務 | | | |
| (1) 利用状況 | 利用者数・稼働率は適切な水準であるか ※1 | B | 資料等確認 総利用台数が昨年度と比較して8,434台減少した |
| (2) 利用者の要望把握 | 利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか | B | 資料等確認 |

| | | | |
|---------------------------|--|---|--|
| 握等 | るか | | 9月に利用者を対象にアンケートを実施 |
| 3 保守点検及び清掃等の業務 | | | |
| (1)保守点検業務 | 基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 機械駐車設備、機械設備、 消防設備、フィルター交換、エレベーター設備、 パーキングシステムの保守点検を委託にて実施 |
| (2)清掃・維持業務 | 基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 専任清掃員による日常清掃(毎日)、定期清掃実施 |
| (3)保安・警備業務 | 基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 事件なく適切に処理されている 夜間警備は委託にて実施 |
| (4)修繕業務 | 基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 機械式駐車設備及びゲートパーの修繕、管球取替を実施 |
| 4 自主事業の実施に関する業務 | 事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか | | |
| 5 情報公開・個人情報に係る措置 | 情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1~4/2、9/1~9/2に個人情報保護研修 受講者各25人 |
| 6 管理目標 | 施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか | B | 施設の現状を的確に認識し、市に報告していただいている |
| II サービスの質の評価 (25点) | | | |
| 1 利用者満足度 | 利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか | B | 資料等確認 9月に定期利用者を対象にアンケートを実施し、多数の方が満足してご利用いただいていることがうかがえた |

| | | | |
|----------|--|---|---|
| 2 維持管理業務 | 日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか | B | 資料等確認 専任清掃員による日常清掃（毎日）、定期清掃により、施設的美観向上を図った |
| 3 運営業務 | 事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか | C | 資料等確認 接客、対応等に関する苦情があった |
| 4 自主事業 | 実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか | | |
| 5 施設の効用 | 施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか | B | 米子駅周辺の駐車場不足の解消及び交通混雑の緩和に寄与している |

Ⅲ サービスの安定性の評価（15点）

| | | | |
|------------------|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1 事業収支 | 指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2 | B | 収支予算に沿った事業収支で妥当である |
| 2 経営状況 | 指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3 | B | 費用に偏りもなく妥当である |
| 3 団体等の経営状況（年度ごと） | 団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4 | A | 資料等確認 施設の管理・運営を安定して行う能力を有すると認められる |

| | |
|---|---|
| <p>【総評（所管課評価）】</p> <p>事業計画に沿って、おおむね良好に管理された。</p> <p>機械式駐車設備が老朽化しており、施設の管理・運営が難しい状況の中で、事故等なく安全に管理・運営をしていただいた。</p> <p>接客、対応等に関してお客様から苦情があったので、職員の教育・指導を改めて徹底するよう指導した。</p> | <p>合計点</p> <p>(54) 点 / (90) 点</p> <p>× 100 = (60.0)</p> <p>平均点</p> <p>(3.0) 点</p> |
|---|---|

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優 良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良 好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|--------|----------------------|----------------------|-----------------|---------------------------|
| 開館日数 | 365日 | 366日 | ▲1日、99.7(%) | |
| 施設利用者数 | 141,206台 | 149,640台 | ▲8,434台、94.4(%) | |
| 施設稼働率 | | | (%) | |
| 事業開催数 | | | (%) | |

※2 事業収支

(1) 収入

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|-------|----------------------|----------------------|------------------|---------------------------|
| 指定管理料 | 36,461,328円 | 36,374,928円 | 86,400円、100.2(%) | |
| 合計 | 36,461,328円 | 36,374,928円 | | |

(2) 支出

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|-----|----------------------|----------------------|-------------------|---------------------------|
| 人件費 | 21,573,670円 | 21,358,450円 | 215,220円、101.0(%) | |
| 委託料 | 5,571,408円 | 5,571,408円 | 0円、100.0(%) | |
| 運営費 | 9,316,250円 | 9,445,070円 | ▲128,820円、98.6(%) | |
| 合計 | 36,461,328円 | 36,374,928円 | | |

※3 経営状況分析指標

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 備考 |
|---------------------|----------------------|----------------------|----------------|----|
| ④ 事業収支 | 0円 | 0円 | 0円、100.0(%) | |
| ⑤ 利用料金比率 | | | (%) | |
| ⑥ 人件費比率 | 59.2% | 58.7% | 0.5%、100.9(%) | |
| ④外部委託費比率 | 15.3% | 15.3% | 0%、100.0(%) | |
| ⑤利用者当たり管 理コスト | 258.2円 | 243.1円 | 15.1円、106.2(%) | |
| ⑥利用者当たり自 治体負担コスト | 258.2円 | 243.1円 | 15.1円、106.2(%) | |

①事業収支：(収入-支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

| 項目 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 備考 |
|-----------|------------------|--------|--------|--------|--------|----|
| ①自己資本比率 | 72.1% | 72.1% | 70.8% | 71.7% | 77.0% | |
| ②流動比率 | 249.9% | 245.1% | 229.3% | 255.1% | 399.5% | |
| ③固定長期適合率 | 66.0% | 66.9% | 68.1% | 64.2% | 56.2% | |
| ④総資産経常利益率 | 4.1% | 3.1% | 4.6% | 5.4% | 5.4% | |
| 評価 | (以上の指標を参考に評価する。) | | | | | |

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 流動資産 | | 流動負債 | |
| 現金及び預金 | 400 | 買掛金 | 400 |
| 受取手形 | 500 | 短期借入金 | 300 |
| 有価証券 | 200 | 流動負債合計 | 700 |
| 流動資産合計 | 1,100 | 固定負債 | |
| 固定資産 | | 社債 | 300 |
| 建物及び構築物 | 200 | 退職給付引当金 | 200 |
| 土地 | 500 | 固定負債合計 | 500 |
| 投資有価証券 | 200 | 負債合計 | 1,200 |
| 固定資産合計 | 900 | 【純資産の部】 | |
| | | 資本金 | 600 |
| | | 利益剰余金 | 200 |
| | | 純資産合計 | 800 |
| 資産合計 | 2,000 | 負債純資産合計 | 2,000 |

■損益計算書（例）

| | |
|------------|-------|
| 売上高 | 3,000 |
| 売上原価 | 1,200 |
| 売上総利益 | 1,800 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,200 |
| 広告 | 700 |
| 人件費 | 500 |
| 営業利益 | 600 |
| 営業外収益 | 200 |
| 受取利息 | 200 |
| その他 | 0 |
| 営業外費用 | 600 |
| 支払利息 | 200 |
| 社債利息 | 0 |
| 経常利益 | 200 |
| 特別利益 | 100 |
| 外国為替 | 100 |
| 特別損失 | 50 |
| 固定資産売却損 | 50 |
| 税引前当期純利益 | 250 |
| 法人税・住民税等 | 50 |
| 当期純利益 | 200 |

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地下駐車場職員の接客、対応に関する苦情 <ul style="list-style-type: none"> →（市）指定管理者に対して、口頭にて、職員の接客、対応の改善を図るよう指導した。 ・身体障害者用区画に健常者が駐車していた。 <ul style="list-style-type: none"> →（指定管理者）身体障害者用区画であることが分かり易いように表示の明確化を行った。 ・料金精算に関する苦情 <ul style="list-style-type: none"> →（市）お客様に誤解を与えるような行為はしないようにと、指定管理者に対して口頭にて指示をした。 |
|--|

6 利用者アンケートの結果

| |
|---|
| <p>9月に利用者を対象にアンケートを実施。</p> <p>多数の方が満足してご利用いただいていることがうかがえた。</p> <p>一部、駐車のにくさ、利用料金の高さ、場内の不潔さ、夜間の出し入れができない点、満車の表示について不満があるという意見が寄せられた。</p> |
|---|

(別紙2)

平成28年度下期「米子駅前地下駐輪場」モニタリング評価表〔平成29年3月〕

| | | |
|---------|--|---------------------|
| 施設名 | 米子駅前地下駐輪場 | |
| 施設所管課 | 建設部 建設企画課 | |
| 指定管理者名 | 団体名 | 星光ビル管理株式会社 |
| | 所在地 | 大阪府大阪市中央区伏見町4丁目4番1号 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 選定方法 | 公募・非公募 | |
| 施設の設置目的 | 米子駅前地区における自転車等の放置を防止し、米子駅前地区内の都市施設の美観を維持し、安全で快適な都市機能を確保することを目的とする。 | |
| 主な実施事業 | 米子駅前地下駐輪場の運営 | |

| 評価項目 | 評価基準 | 評価 | 特記事項 |
|----------------------|--|----|---|
| I 履行の確認 (60点) | | | |
| 1 施設全般の管理運営に関する業務 | | | |
| (1) 管理体制 | 施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか | B | 資料等確認 安全管理、品質向上、マナー向上の意識付けを特に毎月第3月曜日から1週間を重点期間として取り組んだ |
| (2) 職員研修 | 職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1～4/2、9/1～9/2に接遇マナー及び個人情報保護研修 受講者各25人 マナーブックの常時携帯 |
| (3) 利用促進業務 | 利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか | B | 資料等確認 指定管理者ホームページにて広報 |
| 2 利用者に関する業務 | | | |
| (1) 利用状況 | 利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1 | B | 資料等確認 一時駐輪利用台数が昨年度と比較して257台減少した |
| (2) 利用者の要望把握 | 利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか | B | 資料等確認 |

| | | | |
|---------------------------|--|---|--|
| 握等 | るか | | 9月に利用者を対象にアンケートを実施 |
| 3 保守点検及び清掃等の業務 | | | |
| (1)保守点検業務 | 基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 機械設備、消防設備、フィルター交換、エスカレーター設備の保守点検を委託にて実施 |
| (2)清掃・維持業務 | 基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 専任清掃員による日常清掃(毎日)、定期清掃実施 |
| (3)保安・警備業務 | 基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 事件なく適切に処理されている 夜間警備は委託にて実施 |
| (4)修繕業務 | 基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か | B | 資料等確認 管球取替、エスカレーター上部床補修を実施 |
| 4 自主事業の実施に関する業務 | 事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか | | |
| 5 情報公開・個人情報に係る措置 | 情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか | B | 資料等確認 4/1~4/2、9/1~9/2に個人情報保護研修 受講者各25人 |
| 6 管理目標 | 施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか | B | 施設の現状を的確に認識し、市に報告していただいている |
| II サービスの質の評価 (25点) | | | |
| 1 利用者満足度 | 利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか | B | 資料等確認 9月に定期利用者を対象にアンケートを実施 良い点、悪い点、両方の意見があった |
| 2 維持管理業務 | 日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか | B | 資料等確認 専任清掃員による日常清掃(毎日)、定期清掃によ |

| | | | |
|---------|--|---|---------------------------|
| | | | り、施設の美観向上を図った |
| 3 運營業務 | 事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか | B | 資料等確認 おおむね適切に接客している |
| 4 自主事業 | 実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか | | |
| 5 施設の効用 | 施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか | B | 放置自転車防止及び駅前地区の景観向上に寄与している |

Ⅲ サービスの安定性の評価（15点）

| | | | |
|------------------|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1 事業収支 | 指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2 | B | 収支予算に沿った事業収支で妥当である |
| 2 経営状況 | 指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3 | B | 費用に偏りもなく妥当である |
| 3 団体等の経営状況（年度ごと） | 団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4 | A | 資料等確認 施設の管理・運営を安定して行う能力を有すると認められる |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 【総評（所管課評価）】 事業計画に沿って、良好に管理された。 | 合計点 (56) 点 / (90) 点 × 100 = (62.2) 平均点 (3.1) 点 |
|-----------------------------------|--|

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|--------|----------------------|----------------------|---------------|---------------------------|
| 開館日数 | 365日 | 366日 | ▲1日、99.7(%) | |
| 施設利用者数 | 12,473台 | 12,730台 | ▲257台、98.0(%) | |
| 施設稼働率 | | | (%) | |
| 事業開催数 | | | (%) | |

※2 事業収支

(1) 収入

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|----------------|----------------------|----------------------|-----------------|---------------------------|
| 指定管理料 | 13,394,672円 | 13,394,672円 | 0円、100.0(%) | |
| 飲料水自動販 売機収入 | 53,628円 | 51,428円 | 2,200円、104.3(%) | |
| 合計 | 13,448,300円 | 13,446,100円 | | |

(2) 支出

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ~3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ~3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載 |
|----------------|----------------------|----------------------|------------------|---------------------------|
| 人件費 | 8,329,200円 | 8,253,600円 | 75,600円、100.9(%) | |
| 委託料 | 2,958,072円 | 2,958,072円 | 0円、100.0(%) | |
| 運営費 | 2,107,400円 | 2,183,000円 | ▲75,600円、96.5(%) | |
| 飲料水自動販 売機支出 | 53,628円 | 51,428円 | 2,200円、104.3(%) | |
| 合計 | 13,448,300円 | 13,446,100円 | | |

※3 経営状況分析指標

| 項目 | 本年度〔平成28年4 ～3月〕 A | 前年度〔平成27年4 ～3月〕 B | 対比 A-B、A/B | 備考 |
|---------------------|----------------------|----------------------|----------------|----|
| ⑦ 事業収支 | 0円 | 0円 | 0円、100.0(%) | |
| ⑧ 利用料金比率 | | | (%) | |
| ⑨ 人件費比率 | 61.9% | 61.4% | 0.5%、100.8(%) | |
| ④外部委託費比率 | 22.0% | 22.0% | 0%、100.0(%) | |
| ⑤利用者当たり管 理コスト | 1,078.2円 | 1,056.3円 | 21.9円、102.1(%) | |
| ⑥利用者当たり自 治体負担コスト | 1,073.9円 | 1,052.2円 | 21.7円、102.1(%) | |

①事業収支：(収入-支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

| 項目 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 備考 |
|-----------|------------------|--------|--------|--------|--------|----|
| ①自己資本比率 | 72.1% | 72.1% | 70.8% | 71.7% | 77.0% | |
| ②流動比率 | 249.9% | 245.1% | 229.3% | 255.1% | 399.5% | |
| ③固定長期適合率 | 66.0% | 66.9% | 68.1% | 64.2% | 56.2% | |
| ④総資産経常利益率 | 4.1% | 3.1% | 4.6% | 5.4% | 5.4% | |
| 評価 | (以上の指標を参考に評価する。) | | | | | |

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 流動資産 | | 流動負債 | |
| 現金及び預金 | 400 | 買掛金 | 400 |
| 受取手形 | 500 | 短期借入金 | 300 |
| 有価証券 | 200 | 流動負債合計 | 700 |
| 流動資産合計 | 1,100 | 固定負債 | |
| 固定資産 | | 社債 | 300 |
| 建物及び構築物 | 200 | 退職給付引当金 | 200 |
| 土地 | 500 | 固定負債合計 | 500 |
| 投資有価証券 | 200 | 負債合計 | 1,200 |
| 固定資産合計 | 900 | 【純資産の部】 | |
| | | 資本金 | 600 |
| | | 利益余剰金 | 200 |
| | | 純資産合計 | 800 |
| 資産合計 | 2,000 | 負債純資産合計 | 2,000 |

■損益計算書（例）

| | |
|------------|-------|
| 売上高 | 3,000 |
| 売上原価 | 1,200 |
| 売上総利益 | 1,800 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,200 |
| 広告 | 700 |
| 人件費 | 500 |
| 営業利益 | 600 |
| 営業外収益 | 200 |
| 受取利息 | 200 |
| その他 | 0 |
| 営業外費用 | 600 |
| 支払利息 | 200 |
| 社債利息 | 0 |
| 経常利益 | 200 |
| 特別利益 | 100 |
| 外国為替 | 100 |
| 特別損失 | 50 |
| 固定資産売却損 | 50 |
| 税引前当期純利益 | 250 |
| 法人税・住民税等 | 50 |
| 当期純利益 | 200 |

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ JRの最終列車が到着する時間に駐輪場が閉まっているのは駅前の駐輪場としておかしい → (市) 駐輪場の入出場時間は条例で5時から24時と定められており、指定管理者の運用である程度柔軟に対応はしているが、現状では最終列車までの対応は難しい。今後、ニーズが高まれば、入出場時間の延長も検討課題である。 ・ 定期を途中解約した場合に払い戻しができないことの説明がなかった。 → (市) 指定管理者は、通常、定期申し込みの際に、途中解約をした場合は払い戻しができない旨の説明をしているが、改めて事前の説明を徹底するよう指定管理者に伝えた。 |
|--|

6 利用者アンケートの結果

| |
|---|
| <p>9月に利用者を対象にアンケートを実施。</p> <p>良い点、悪い点、両方の意見があった。</p> <p>悪い点として、駐輪のしにくさ、場内の暗さ、場内の不潔さ、利用料金の高さなどの意見が寄せられた。</p> |
|---|